

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋 賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878



2018/12/12

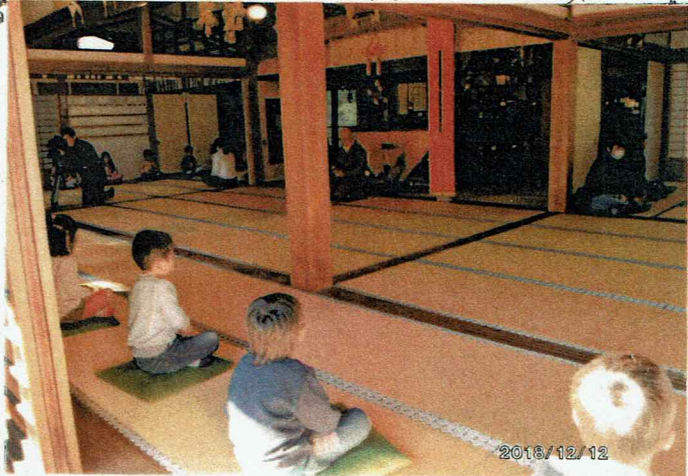
日頃何気なく使っている言葉には本来、禪の用語だったものがある。
語源を知れば言葉にふくらみが増し、会話が楽しくなる。
更には禪への関心が高まり、物の見方も一度変わる。



2018/12/12

ここから入と言葉、を掛け合うことを挨拶というようになった。
行脚し、雲水が修行のために諸國に師を拜し、求めて歩き回ること。

今も連綿と日本人の心の底に流れる禪の教え



2018/12/12



▲写真上、洞光院本堂で「けん玉の技」は披露する年長組。中けん玉指導最後の日、年中組に見せる先輩年長組。下「けん玉」係り組をもちろ年長組園児7年組頑張りました。

「喝」
大きな声で自己の心境を示すこと。
相手の本心に迫るところから、喝する「喝する」という語が生まれた。
玄關と悟りの境地(玄旨)に至る関門。禅院の入口に「玄關」という額を掛けたところから一般化した。

▲洞光院 年長組坐禅の日



▲最後のけん玉十分間に集中中。

